

建設ICT導入普及研究会(第3回)総会 アンケートからとりまとめ

H25.3

番号	ご意見・ご要望など	回答
1	設計段階からのデータ作成と流通への取組は非常に良い。引き続き進めて戴くうえで、ルール義務化とともにもっと早く進めて戴きたい。	「設計から施工へのデータ流通に関するルール(案)」の本格運用に向けて、来年度(H25)に試行を行い効果や課題を明確にし、早期の運用を目指します。
2	私にとっては、TS出来形のデータ作成でも非常に難しく感じています。設計コンサルタントを含めた業者への教育が必要だと考えます。	来年度(H25)に行う「設計から施工へのデータ流通に関するルール(案)」の試行時において、流通データ作成の手引き等を取りまとめることにより、使い易いルール(案)を目指します。
3	建設ICTを活用する受注者には、3Dデータ(TS出来形管理用データや、MG/MC施工用データ)を発注者から無償提供して欲しい。 (1)少なくとも使用原則化する技術と範囲においては、無償提供して欲しい。 (2)また、まず基本設計データのみ提供(流通)を検討していくとのことだが、施工中変更への対応についてはどのようにするのか。	設計図のCADデータは完成形を示しており、施工段階で扱うデータは従来施工の丁張りデータに相当するため、設計段階で全てのデータを作成することは困難かつ手戻りの発生に繋がります。 このため、設計段階で作成する3次元データは、施工時の基準となる基本設計データとし、施工計画に併せてオフセット等の加工を行い使用することになっていますが、来年度(H25)の試行時において、提供すべき適切なデータの運用についても検討する予定です。
4	今回、CIMの考え方や目的が理解出来た。自分たちに取り入れられるかどうかは判らないが、将来性を強く感じたので今後の展開を注視したい。 また、建設ICTとCIMとの関係や、研究会でのCIMの位置付けを明確にして戴きたい。	CIM取組は、CIM制度検討会(官が主体)、CIM技術研究会(民間主体)で進められていますが、方向性などはこれから具体的に近づくところ。今後、CIMの動向に注視して参りたい。 一方、建設ICTは現在、設計・施工段階を中心とした取組を進めており、その他の建設生産プロセスについても取り組んで参ります。
5	CIMの今後の方針をさらに詳しく知りたい。また、日本国内規格とするのか、世界規格とするべく進めて行くのかの方針について知りたい。	CIMの取組は、CIM制度検討会(官が主体)、CIM技術研究会(民間主体)で進められていますが、方向性などこれから具体的に近づくところ。なお、CIM技術研究会については以下のJACICのHPで随時状況が更新されております。 (http://www.cals.jacic.or.jp/CIM/index_CIM.htm)
6	TS出来形(舗装工事編)Ver4 では、測定項目として「幅、基準高、延長」以外も扱えるようですが、「厚さ」など同一点管理が必要な場合はどのようにするのか教えて欲しい。	「TSを用いた出来形管理の監督・検査要領(舗装工事編)」(平成24年3月)の7-1を参照願います。
7	今後、普及に向けたタイムスケジュール、活動内容、数値目標などについて、極力具体的に明示して頂ければ幸いです。	各WG活動のスケジュールなどは今回の総会でお示しましたが、各技術の普及目標などについては定性的、定量的なものを含めて、会員各位の意見を伺いながら進めて参りたい。
8	各種要領などありますが、そのポイントをまとめた「ガイドライン」を整備、発刊することで、施工業者への普及が見込めると思います。(要領は文章主体のためわかりにくい)	中部地方整備局「建設ICT情報サイト」及び当研究会現場支援チーム作成の入門書等により情報提供を行っていますのでご活用願います。

番号	ご意見・ご要望など	回答
9	技術者育成の取り組みについて 今後も発注者に育成をお願いしたい。	H25年度も中部地整職員に加えて自治体職員を対象とした「建設ICT講習会」を実施するほか、様々な機会、ツールを活用して技術者育成を進めて参ります。
10	将来に向けて、元請け職員を対象としたICT施工管理技術者等の資格等の検討を願います。(向上した施工管理者)を増加させる為にも。	「情報化施工推進戦略(2008年7月)」の共通課題(#24)に「資格制度の創設に向けた検討」が挙げられています。2013年度からの「情報化施工推進戦略(案)」のなかでは、情報化施工を効果的に活用出来る技術者を積極的に活用する仕組みの構築が必要であるとしております。
11	TS/GNSS締固め管理において、天候、気温、含水比、材料などの付加情報を追加し、品質の均一化や向上について開発を進めて欲しい。 また、これにより将来的には事前の試験施工が不要となる発展性も望めるのではないか。	「情報化施工推進戦略(2008年7月)」の共通課題(#10)に「新たな土の締固め基準の研究」で面的な性能・品質(強度・密度など)についての試験を実施しております。2013年度からの「情報化施工推進戦略(案)」のなかでは、不均一な材料品質を管理する技術の開発などへの取組が必要であるとしております。
12	使用原則化ではないTS出来形管理(1万m3未満)について、入口と出口(入札時と検査評定)のインセンティブはどの様に取り扱われるのか教えて欲しい。	総合評価の運用ガイドラインは、改訂作業中です。然るべき時期に公表、説明を実施する予定です。また、検査評定では引き続き加点措置を執る予定です。
13	H24の総合評価運用ガイドラインでは、TS出来形管理に比べMG/MC技術の評価点がやや低く、導入の後押しとなっていないため、改善または、初期導入費用の積算計上を願いたい。	総合評価の運用ガイドラインは、改訂作業中です。然るべき時期に公表、説明を実施する予定です。なお、今後も技術毎の市場の状況、普及の実態などに合わせて見直しを図って参ります。
14	建設ICTを適用する規模が小さすぎるので見直して欲しい。(公告時に建設ICT活用計画書の提出を可能とする規模が小さすぎる。) 適用規模が小さい工事における活用が負担となっている。	小規模であっても建設ICTが活用できる可能性を上げておくことが、活用の裾野を広げる上で重要と考えております。従って現段階においては、提出可能範囲を狭くすることは考えておりません。
15	地方自治体への展開、普及は急務として取り組んで戴きたい。 検査評定には組み入れ事例があるが、手順、要領などは未対応。発注者としての関心もまだ希薄と感じます。 より具体的な目標設定を願います。	地方自治体(県、政令市)を対象に技術の紹介、講習会などへの参加を呼びかけてまいります。また、各自治体ごとに状況、環境などが違うことから目標設定なども異なるかと思いますが、研究会会員自治体に対しては、適宜サポートして参ります。
16	ブロックごとに今回の様な報告会を実施戴きたい。 そのなかで、ユーザーの生の声やコストパフォーマンス、メリット・デメリットなどを会員参加型で開催されたい。	平成24年度は、普及活動PTの中で現場活用で体験した技術者からの事例紹介を実施しました。来年度は、全研究会員を対象とした「施工報告会」の開催を検討致します。その中では、「現場経費(概算など出来る範囲で)」、「メリットデメリット」などについて発表し、同種技術の導入を検討している方々との意見交換などを検討しております。